令和８年11月9日

京都市立東総合支援学校

令和８年度　前期学校評価について

前期学校評価アンケートでは、保護者・児童生徒・教職員の回答結果と自由記述でいただいたご意見を基に、前期の取組について分析しました。今回の結果と分析、学校の取組内容や改善策等について記載しています。いただいたご意見は、全教職員で共有し、課題改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。

＜前期学校評価のねらいと方法について＞

（1）ねらい

◎今年度の学校経営の重点項目に沿って、教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施することによって、前期の取組に対する達成状況等を明らかにする

◎達成項目や課題項目について、教職員・保護者と情報共有し改善に向けて取り組む

（2）アンケート実施方法

◎ 調査対象　：児童生徒、保護者、教職員

◎ 時　　期　：令和8年９月上旬

◎ 回 答 者　：児童生徒、保護者、教職員

◎ 調査方法　：選択肢（児童生徒：はい、いいえ、わからない　保護者：できている、できていない、わからない　教職員：できている、できていない）の総数に対して数値を出し、分析しています。

（3）回答率　※集計は児童生徒単位で行っています。兄弟姉妹が在籍するご家庭にも、お子様ごとにアンケートを配付しているため、対象数は保護者世帯数ではなく児童生徒数を基準としています。

	保護者	小学部保護者	中学部保護者	高等部保護者	教職員
	児童生徒	児童	生徒	生徒	
回答数	78（142）	29（47）	21（34）	28（61）	118（118）
	58（142）	10（47）	10（34）	38（61）	
保護者・教職員の回答率	54.90%	61.70%	61.80%	54.90%	100%
回答当たりの比率	1.28%	3.45%	4.76%	3.57%	0.85%
	1.70%	10%	10%	2.63%	

（4）アンケート結果

【保護者アンケート】

今年度の保護者アンケートでは、本校の教育活動に対して一定の理解と評価をいただいていることが確認できました。一方で、多くの項目において昨年度と比較して肯定的回答が減少し、「わからない」の回答が増加する結果となりました。しかし、この傾向は教育活動そのものへの評価の低下を示すものではなく、保護者の皆様が各設問の内容を意識しながら回答し、実際に把握できていることと十分に把握できていないことを判断して回答してくださった結果であると捉えています。そのため、「わからない」の回答の増加は、学校の取組や教育的意図、教育活動の成果が保護者の皆様に十分伝わっていないことを示すものとして受け止める必要があると考えています。

今後は、学校評価の各設問に対して、日々の連絡帳や懇談会、個別面談など保護者の皆様と直接対話できる機会を活用し、日頃の教育活動や学習の様子と関連付けながら、具体的かつ丁寧に説明してまいります。特に、①子どもが生き生きと学んでいる様子、②自分自身や他者を大切にしている様子、③安全教育を通して身に付いた力、④複数担任制による支援や子どもとの関わり、⑤子どもたちが意欲的・主体的に学習に取り組んでいる様子、⑦ICT 機器を活用した学習の様子、⑧地域資源を活用した学習の様子、⑩進路選択につながる得意なことや興味・関心を伸ばす学習の様子については、具体的なエピソードや学習成果とともに発信することで、保護者の皆様の理解をより深めていきたいと考えています。

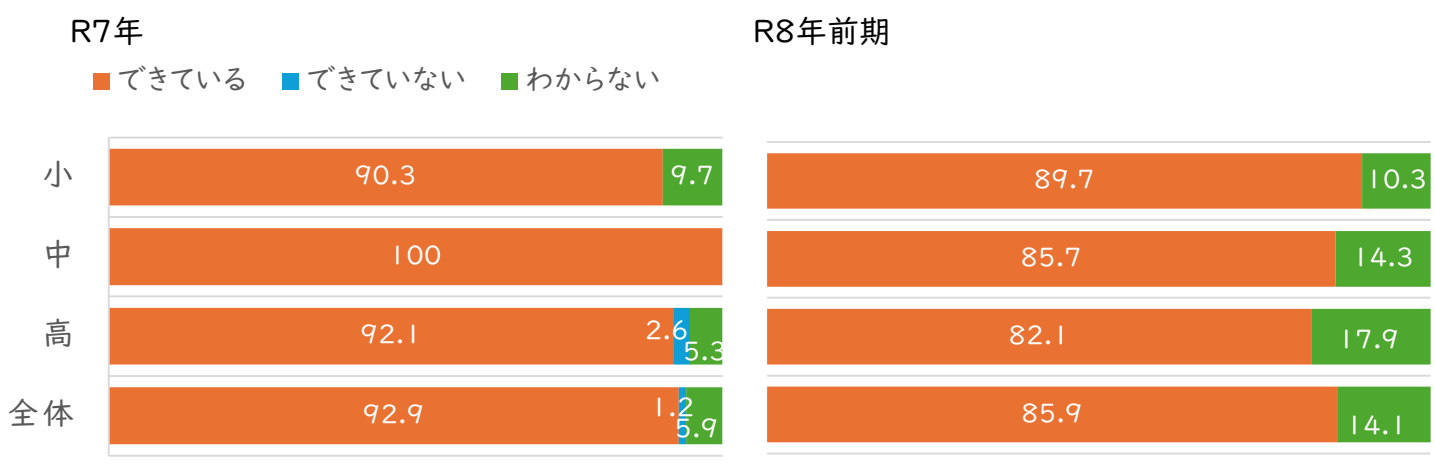
また、⑥「子ども一人一人を大切にする教育」については、教職員一人一人が人権意識を高く持ち、日々の教育活動の中で児童生徒一人一人を尊重した関わりを継続してまいります。さらに、⑨「学校からの情報発信」については、日々の連絡を通して教育活動のねらいや学習内容、子どもたちの成長や活躍の様子について積極的に伝えてまいります。

また、後期の学校評価アンケートにおいては、「わからない」と回答された場合の理由についても把握できるよう、回答方法の見直しを検討しております。「学校で実施されていることを知らなかった」「実際の様子を見る機会がなかった」「設問の内容がわかりにくかった」など、回答の背景を丁寧に分析することで、保護者の皆様が必要としている情報や説明内容をより的確に捉え、学校の教育活動やその成果、教育的意図を分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。

今後も、保護者の皆様との対話と情報発信の充実を図りながら、家庭と学校が協働して子どもたちの成長を支える教育活動を推進し、本校の教育活動への理解と信頼を一層深めていきたいと考えています。

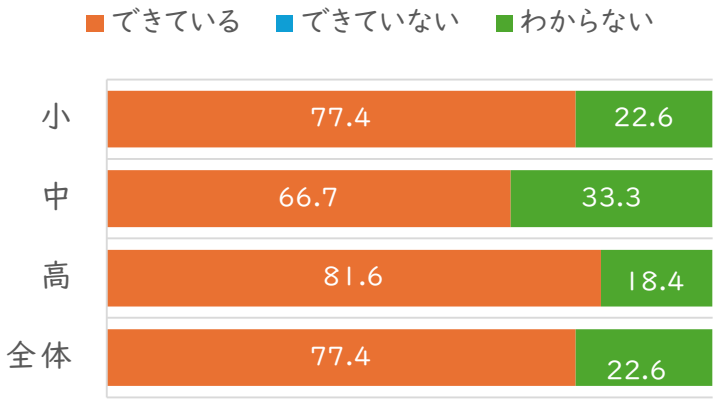
「いのち」 ～子どもの命を守り切る～

設問１　学校は、子どもが安心して生き生きと学べる環境を作っている

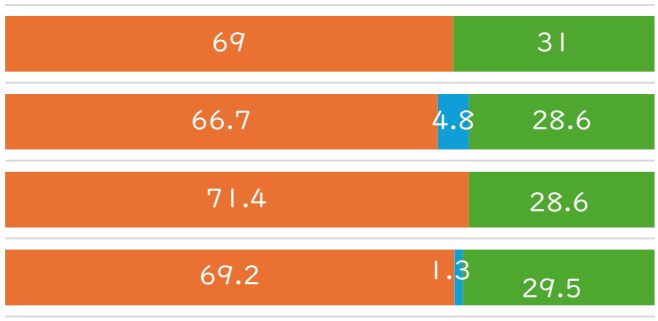


設問2　学校は、命や性に関する学習を通して、自分や人を大切にする力を育んでいる

R7年

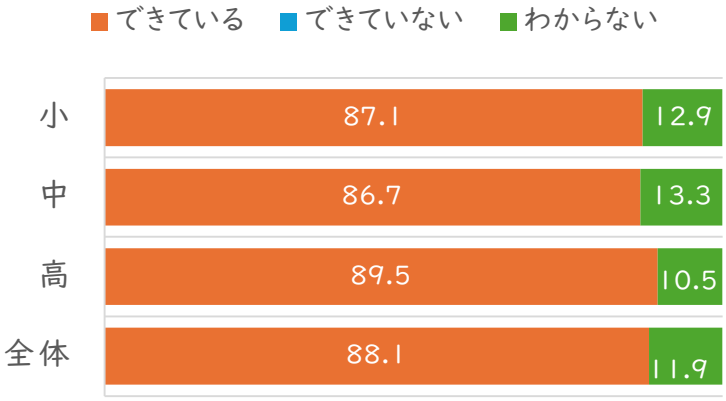


R8年前期

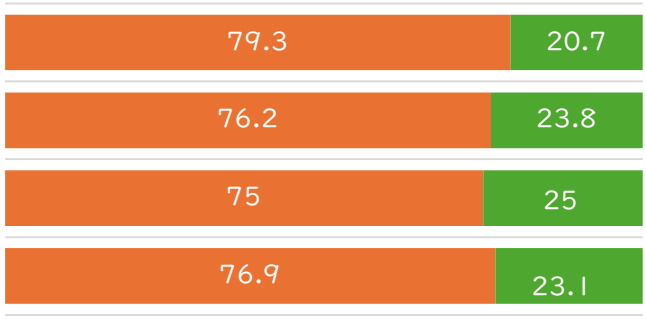


設問3　学校は、安全、防災・防犯に関する学習を通して自分ができることや心身を守る力を育んでいる

R7年



R8年前期



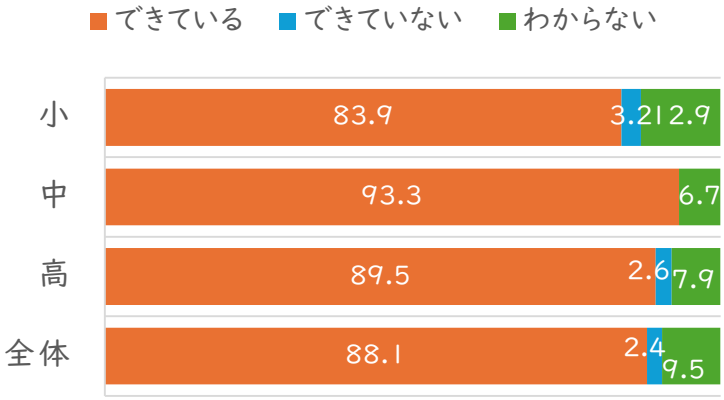
「いのち」の項目では、子どもの命を守り切ることを教育活動の基盤とし、安心して生き生きと学び、自分らしく力を発揮できる学校づくりを進めてまいりました。その実現に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援や健康・安全に配慮した教育環境の整備を行うとともに、担任をはじめ養護教諭や関係教職員が日常的に情報共有や連携を図り、子どもたちの健康状態や心身の変化の把握に努めながら、組織的な支援体制の充実を進めてまいりました。また、性に関する学習や人権学習、道徳、自立活動等を通して、自他の命や相手を尊重する態度の育成に取り組んでまいりました。さらに、安全・防災・防犯教育の充実を図り、子どもたちが社会の中で主体的に判断し、自らの命と心身を守りながら生きていく力の育成に努めてまいりました。

保護者アンケートでは、これらの項目について全体として高い割合の肯定的回答をいただき、本校の取組に対して一定の理解と評価を得られていることがうかがえます。一方で、「わからない」との回答も見られたことから、今後は日々の連絡を通して子どもたちが安心して学ぶ姿や、自他を大切にする態度の育ち、安全・防災に関する学びの成果について具体的に発信してまいります。さらに「子どもの命を守り切る」教育活動の理念を保護者の皆様と共有しながら、より一層充実した教育活動の推進に努めてまいります。

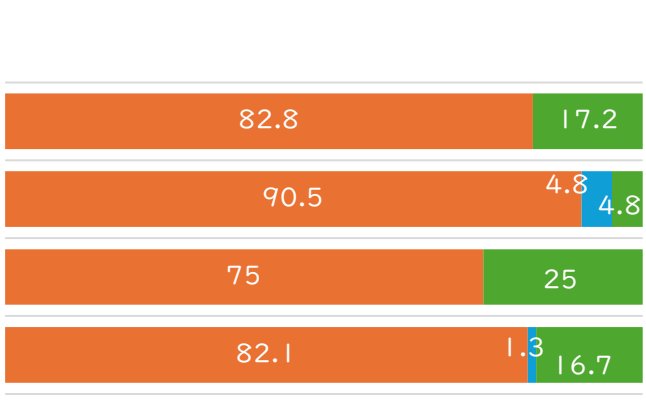
「よりそい」 ～誰一人取り残されない教育を進める～

設問4　学校は、複数担任制等、全教職員で子ども一人一人と関わり丁寧に寄り添っている

R7年

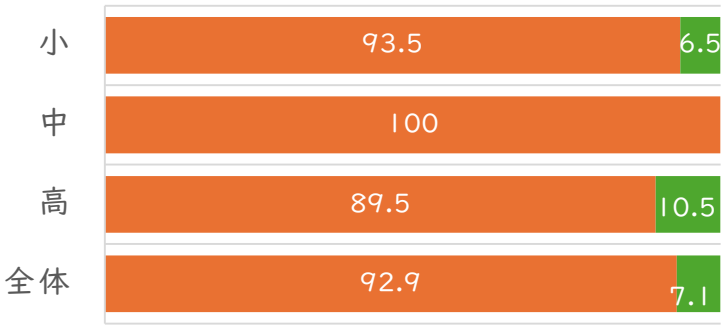


R8年前期

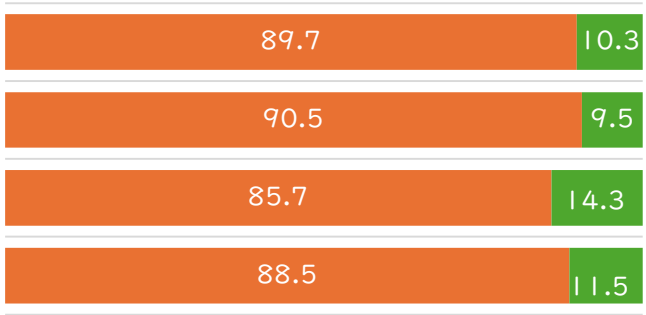


設問5　学校は、一人一人のねらいに合わせた「個別の包括支援プラン」を基に、子どもが意欲的かつ主体的に活動できる授業を行なっている

R7年



R8年前期



「よりそい」の項目では、一人一人の子どもに丁寧に寄り添い、それぞれの教育的ニーズに応じた支援と主体的な学びの実現を目指して取り組んでまいりました。具体的には、複数担任制を生かして教職員間で児童生徒の情報共有を行いながら、一人一人の実態やニーズに応じた支援を組織的に進めるとともに、「個別の包括支援プラン」を活用し、一人一人の教育的ニーズを踏まえた授業づくりや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進してまいりました。

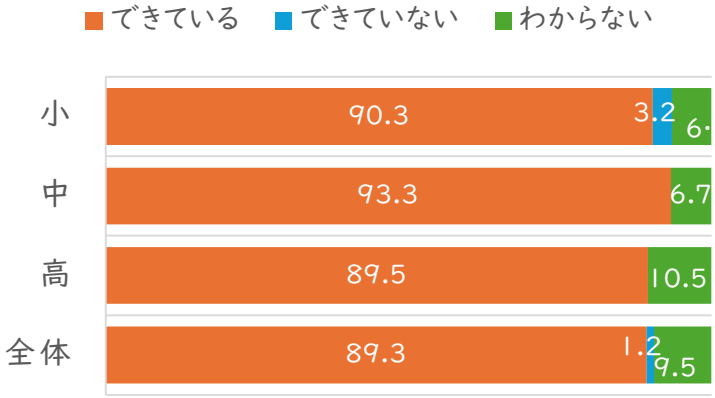
保護者アンケートでは、両項目とも高い割合で肯定的回答をいただいており、本校が進める個に応じた支援や授業実践について、一定の理解と評価を得られていることがうかがえます。一方で、「わからない」との回答も見られたことから、複数担任による支援体制や「個別の包括支援プラン」に基づく授業のねらい、学習成果について十分にお伝えできていない面もあると考えられます。

今後は、日々の連絡の中で、児童生徒が主体的に学び、成長している姿を具体的に発信してまいります。そして、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実と主体的に学ぶ力の育成をさらに進め、子どもたちが安心して学び、自らの力を発揮できる教育活動の充実に努め、信頼を得られるように取り組んでまいります。

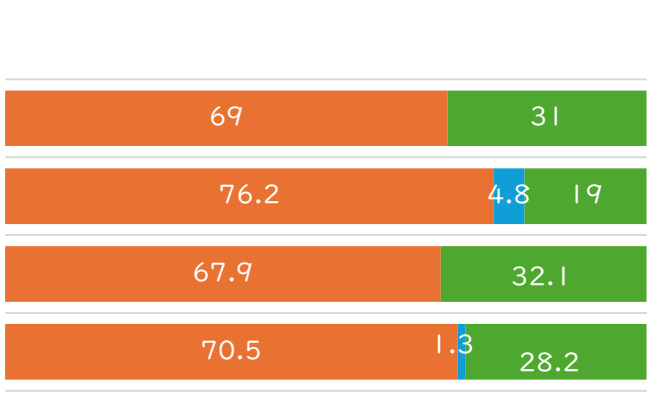
「つとめ」 ～職責の自覚、研鑽教育の質を高める～

設問6　教職員は、「教員の言動そのものが教育である」との認識のもと、子どもの人権を守り、一人一人を大切にしている

R7年

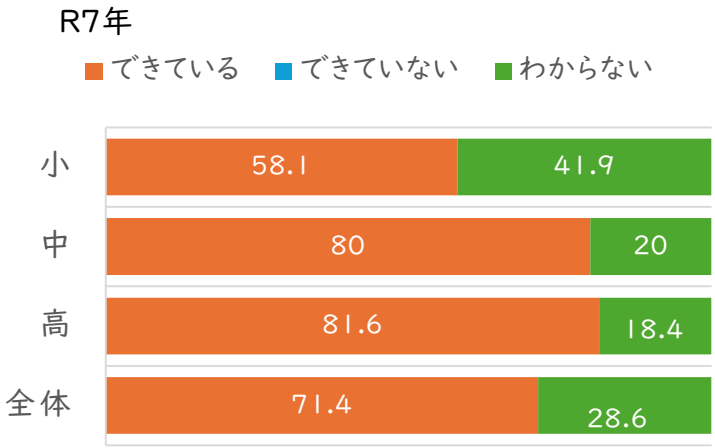


R8年前期

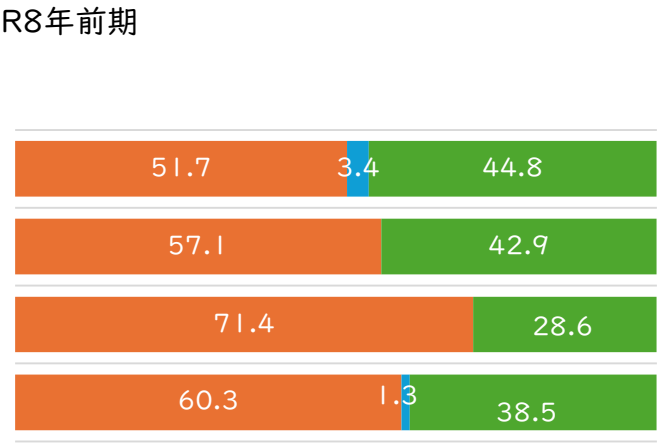


設問7　学校は ICT を活用し、こどもが主体的に学び、他者と協働しながら、生活に生きる力を育んでいる

R7年



R8年前期



「つとめ」の項目では、「教職員の言動そのものが教育である」との認識のもと、子どもの人権を守り、一人一人を大切にする教育の推進と、ICT を活用した主体的な学びの充実に取り組んでまいりました。具体的には、人権研修や ICT 研修を通して、人権尊重の視点に立った教育実践の充実に努めるとともに、ICT を子どもたち一人一人の学びやコミュニケーションを支える有効な手段として活用し、自分の思いや考えを表現する力や主体的に学ぶ力、さらには豊かな生活や社会参加につながる力の育成を目指してまいりました。その実現に向けて、ICT を活用した授業づくりや教職員の ICT 活用指導力の向上を図るとともに、子どもたちが主体的に学びを深められる教育環境の整備を推進しています。

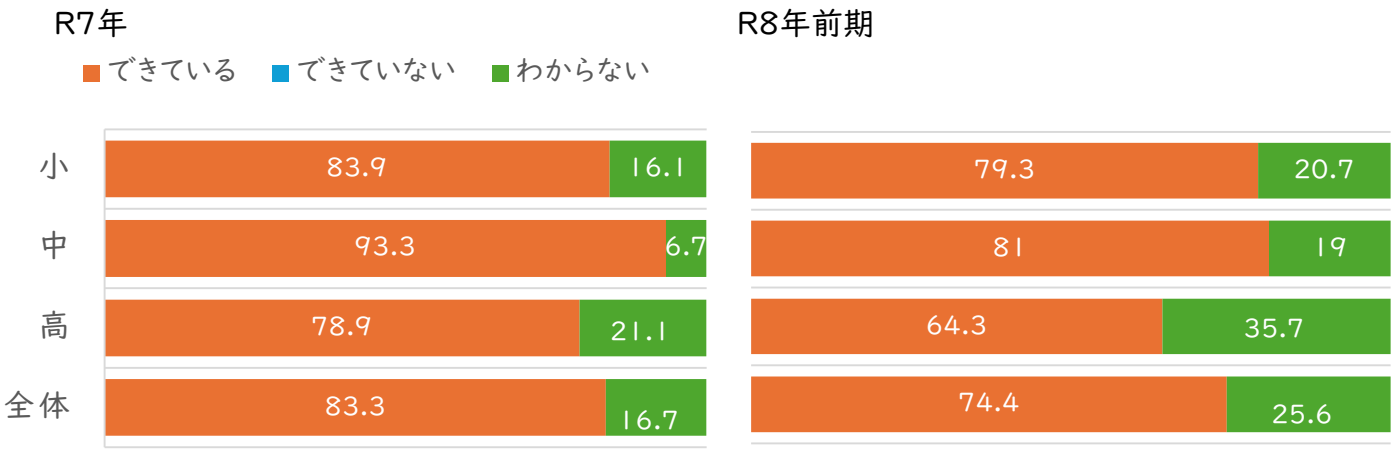
保護者アンケートでは、両項目とも肯定的な回答をいただいており、本校の取組について一定の理解と評価を得られていることがうかがえます。一方で、「わからない」との回答も比較的多く見られ

たことから、人権を尊重した教育活動や ICT を活用した学習の実際、そこで育まれている力や成果について、十分にお伝えできていない面があると考えられます。

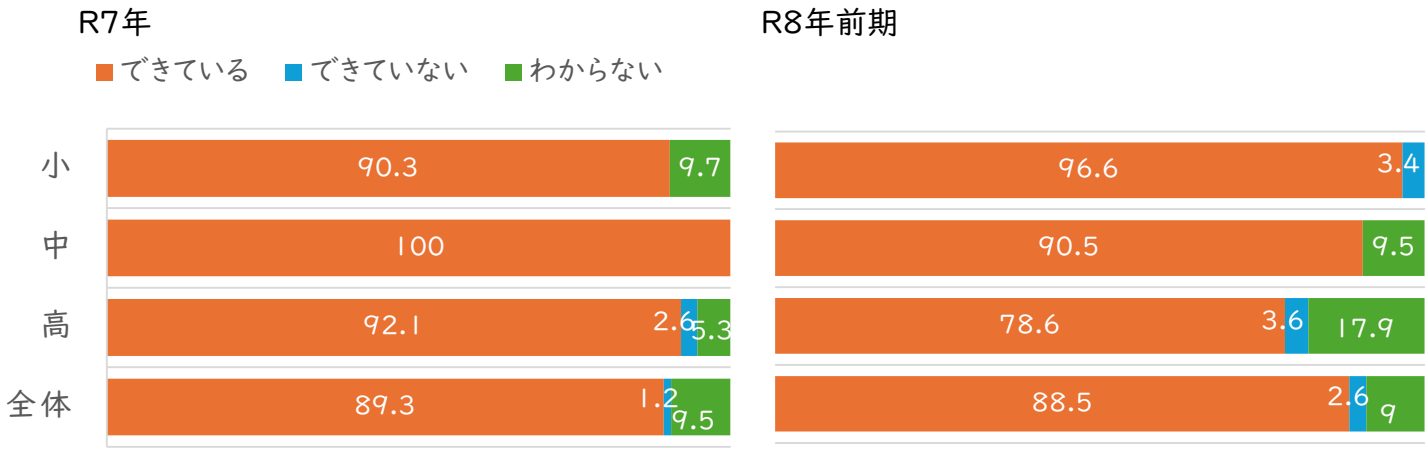
今後は、人権教育や教職員研修の取組、ICT を活用した学習の様子や成果について、ホームページ等を活用しながら具体的に発信するとともに、日々の連絡のなかでお伝えしてまいります。また、ICT が単なる機器の活用にとどまらず、子どもたちの学びを豊かにし、自立と社会参加に必要な力の育成につながっていることについても丁寧にお伝えしてまいります。そして、保護者の皆様との相互理解と信頼関係を一層深めるとともに、一人一人の人権を尊重する学校づくりと、主体的・協働的に学ぶ力の育成に向けた教育活動のさらなる充実に努めてまいります。

「ひろがり」 ～社会に開かれた教育課程の実現～

設問8　学校は、豊かな自然と地域資源を活用し子どもの世界（視野や経験、意識）が広がる多様な学びを取り入れた授業を行なっている



設問 9　学校は、すぐーる、ホームページ、配布物等を通して、活動のねらいや子どもたちの様子等の情報を発信している



「ひろがり」の項目では、地域資源を活用した多様な学びを通して、子どもたちの視野や経験、興味・関心を広げるとともに、家庭や地域とのつながりを大切にした社会に開かれた学校づくりを推進してまいりました。具体的には、校外学習や地域との交流活動、地域資源を生かした学習活動を

積極的に取り入れ、子どもたちが人や自然、地域社会と関わりながら学びを深める機会の充実を図っています。

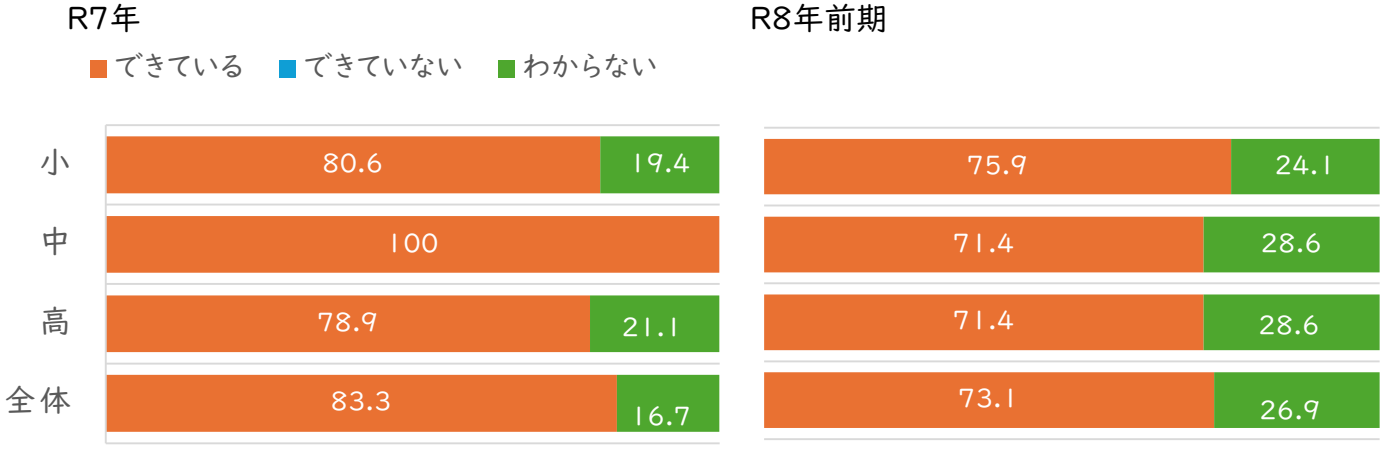
その一例として、地域に出かけたり、地域の児童館や福祉施設等で地域の方々との交流を深めています。さらには実践的な取り組みとして、清掃や軽作業、接客などの仕事を体験しています。こうした活動を通して、社会で生きるために必要な態度やコミュニケーション能力を育むだけでなく、自らの得意なことや課題に気付き、自己理解を深めながら、将来の進路や社会参加につながる力を身に付けられるよう取り組んでいます。また、ホームページ等を活用して教育活動の様子や学習のねらいを発信し、家庭や地域との連携の充実にも努めてまいりました。

保護者アンケートでは、両項目とも高い割合で肯定的な回答をいただいており、本校が推進する地域とともに学ぶ教育活動や情報発信の取組について、一定の理解と評価を得られていることがうかがえます。一方で、高等部を中心に評価の低下や「わからない」との回答が見られたほか、自由記述において情報発信の充実を求めるご意見も寄せられました。このことから、地域交流や校外学習等の教育的意図や学習成果に加え、それらの活動を通して育まれる力や子どもたちの成長の姿について、十分にお伝えできていない面があると考えられます。

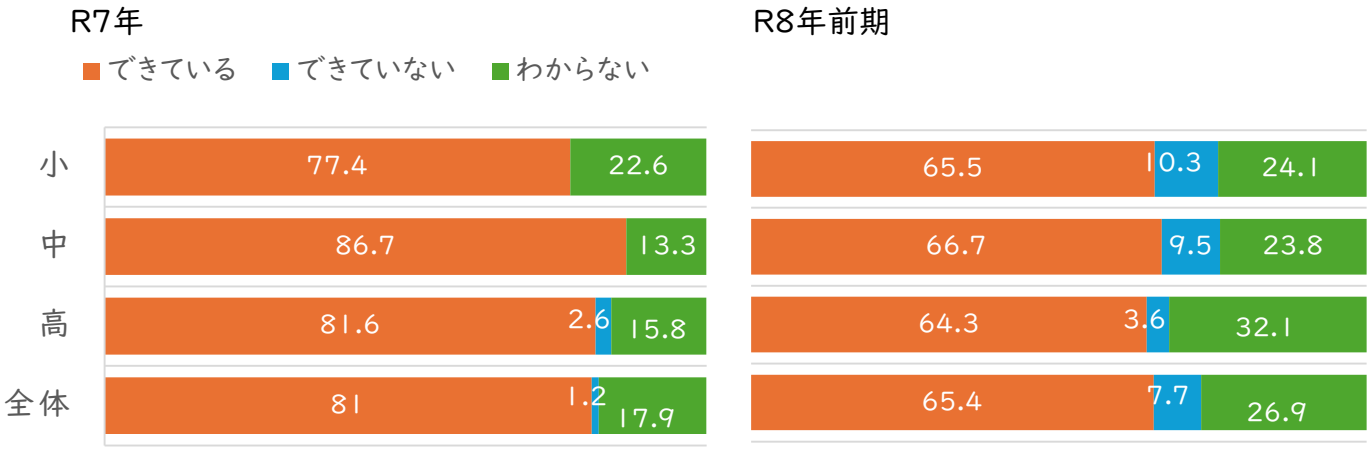
今後は、地域資源を活用した学習活動の意義や成果について、具体的なエピソードや子どもたちの学びの様子を積極的に発信してまいります。また、ホームページや学校だよりに加え、玄関モニターを活用した教育活動の動画配信など、保護者や来校者の皆様に学校の取組や子どもたちの学びの姿を分かりやすく発信し、理解の促進に努めるとともに、日々の連絡の中で、保護者の皆様のニーズを踏まえた継続的な情報発信の充実を図ることで、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を生かしながら協働し、子どもたちの豊かな学びと成長を支える教育活動を一層充実させ、「ひろがり」の実現につなげてまいります。

「つながり」 ～校種間連携・接続により子どもを支え

設問 10　学校は、子どもが自らの進路選択・決定のために生活年齢に応じて得意なこと、興味のあることを広げ社会参加するための学習をしている



設問 11　学校は、就学前や校種間、小・中・高等部の学部間での引継ぎを行い、学びの系統性や連続性のある授業を行なっている



「つながり」の項目では、子どもたちが学校での学びを将来の生活や進路、自立と社会参加につなげられるよう、系統的で連続性のある教育活動を推進しています。各学部の児童生徒の発達段階に応じて、自ら考え、選択し、決定する力を育む取組を進めるとともに、「個別の包括支援プラン」等を活用しながら、就学前から卒業後までを見据えた引継ぎや学部間・校種間の連携を行い、学びの系統性と連続性を大切にした教育活動に取り組んでまいりました。また、一人一人の成長や課題を丁寧に把握し、できるようになったことや強みだけでなく、今後さらに伸ばしていく必要がある力についても保護者と共有しながら、将来を見据えた支援の充実に努めています。

保護者アンケートでは、本校が学びの継続性を大切にした取組について一定の理解と評価を得られていることがうかがえます。一方で、前年度と比較して評価の低下し「できていない」や「わからない」の回答も見られたことから、進路学習や社会参加に向けた取組、学部間・校種間の引継ぎや学びの連続性に関する取組は、保護者の皆様から見えにくい内容であり、そのねらいや成果について十分にお伝えできていない面があると考えられます。また、子どもたちの成長の様子や今後の課題、卒業後の生活を見据えて育成を目指す力についても、より丁寧な共有が必要であると考えられます。さらに、学部間・校種間の引継ぎや学びの系統性・連続性に関する項目について評価の低下や「わからない」との回答が見られたことから、保護者の皆様がどのような点に課題や分かりにくさを感じておられるのかを教職員が丁寧に把握・分析するとともに、引継ぎの内容や学びのつながりが児童生徒の成長にどのように生かされているかについて検証し、改善につなげていく必要があると考えております。

今後は、キャリア教育のねらいや子どもたちの成長の姿、卒業後の生活を見据えた学習の成果について積極的に発信するとともに、日々お話する中や連絡帳で丁寧に共有してまいります。また、一人一人の強みや成長に加え、今後の生活や社会参加に向けて伸ばしていきたい力や支援の方向性についても保護者の皆様と共通理解を図りながら、家庭と学校が連携して子どもたちの自立と社会参加を支える教育活動のさらなる充実に努めてまいります。

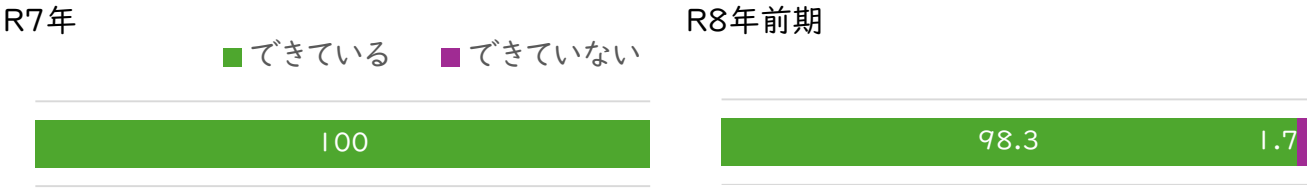
【教職員アンケート】

教職員アンケートでは、全 11 項目で 90%を超える高い肯定的評価が得られており、学校全体で教育活動が組織的かつ継続的に推進されていることが確認できました。一方で、「ICT を活用した教育」「地域資源を活用した学習」「個別の包括支援プランを基にした主体的な学び」については、さらなる充実が必要であることも明らかとなりました。

また、教職員アンケートでは高い評価が得られている一方で、保護者アンケートでは「わからない」との回答や肯定的評価の低下が見られる項目もあり、教職員間では取組が着実に進められているとの実感があるものの、その内容や教育的意図、成果が保護者の皆様に十分伝わっていない状況もうかがえます。このことから、教育活動そのものの充実に加え、取組のねらいや子どもたちの成長の姿を分かりやすく発信し、学校と家庭との共有を一層進めていくことが重要であると考えられます。

今後は、児童生徒一人一人の可能性を最大限に引き出す教育の実現に向けて、教職員の専門性向上と組織的な取組を一層推進するとともに、ICT を活用した教育、地域とつながる学習活動、「個別の包括支援プラン」を基にした主体的な学びのさらなる充実を図ってまいります。また、これらの取組や成果について積極的な情報発信に努め、保護者の皆様との相互理解を深めながら、学校と家庭が一体となって子どもたちの成長を支える教育活動の推進に尽力してまいります。

設問1　子どもが安心して生き生きと学べる環境を作っている



肯定的回答は 98.3%と極めて高い評価を維持しておりますが、一部の教職員が課題を感じていることから、児童生徒一人一人の状況やニーズへの対応に差が生じる可能性も考えられます。そのため、**安心して学び、自分らしく力を発揮できる学校づくりに向けて**、児童生徒の実態把握と教職員間の情報共有を一層充実させるとともに、教育環境のさらなる向上に努めてまいります。

設問2　命や性に関する学習を通して、自分や人を大切にする力を育んでいる



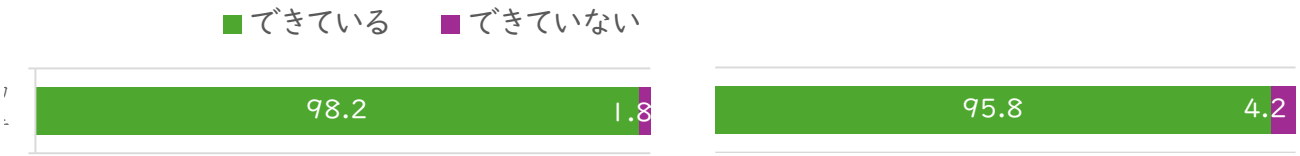
肯定的回答は 98.3%と高い評価であり、命や性に関する学習の重要性について教職員の共通理解が図られていることがうかがえます。一方で、発達段階や実態に応じた系統的な指導のさらなる充実が求められることから、**自他を大切にする力の育成に向けて**、学部間における教材や実践の共有を進めるとともに、学びの連続性を意識した継続的な学習の充実を図ってまいります。

設問3　学校は、安全、防災・防犯に関する学習を通して、自分ができることや心身を守る力を育んでいる



肯定的回答は98.3%と高い評価を維持しており、安全・防災教育が着実に実践されていることがうかがえます。一方で、実際の災害や緊急時を想定した主体的な判断力や行動力の育成については、さらなる充実が求められています。**自ら考え行動し、自分の命を守る力の育成に向けて**、児童生徒が状況に応じて適切に判断し行動できる力を育むとともに、実生活につながる防災・防犯教育の一層の充実を図ってまいります。

設問4　複数担任制等、全教職員で子ども一人一人と関わり丁寧に寄り添っている



肯定的回答は95.8%と高い評価を得ておりますが、前年度と比較するとやや低下が見られました。このことから、児童生徒理解や支援方針の共有に課題を感じている教職員が一部いることもうかがえます。**一人一人を大切にした支援の充実に向けて**、学年会やケース会議等を活用した情報共有を一層充実させるとともに、組織的な連携体制のさらなる強化を図ってまいります。

設問5　一人一人のねらいに合わせた「個別の包括支援プラン」を基に、子どもが意欲的かつ主体的に活動できる授業を行なっている



肯定的回答は94.1%と高い評価を得ており、個別の包括支援プランを活用した授業改善の成果が見られます。一方で、主体的な学びの実現に向けたさらなる工夫の充実が求められていることから、**主体的に学ぶ力の育成に向けて**、児童生徒が自ら考え、選択・決定する場面を一層充実させるとともに、一人一人の主体的な学びを支える授業づくりの推進を図ってまいります。

設問6「教員の言動そのものが教育である」との認識のもと、子どもの人権を守り、一人一人を大切にしている



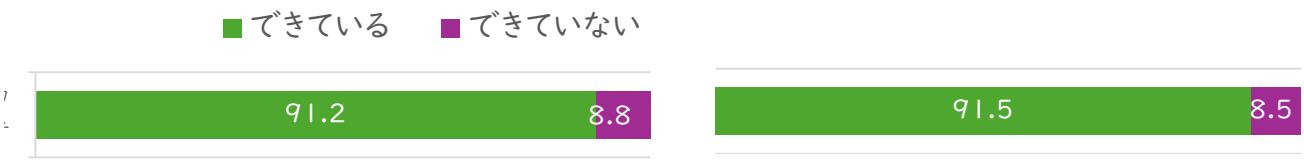
肯定的回答は97.5%と高く、人権尊重の視点に立った教育活動が推進されていることがうかがえます。一方で、日常の言葉かけや支援の在り方については、継続的な振り返りと改善が求められています。**子どもの人権を守り一人一人を大切にするために**、校内研修や実践交流の充実を図るとともに、人権意識のさらなる向上と人権尊重の視点に立った教育実践の推進に努めてまいります。

設問7 学校はICTを活用し、こどもが主体的に学び、他者と協働しながら、生活に生きる力を育んでいる



肯定的回答は90.7%と高い水準を維持しているものの、全設問の中では最も低い結果となりました。このことから、ICT活用の実践や指導力に差が見られることがうかがえます。ICTは活用すること自体が目的ではなく、児童生徒一人一人の可能性を引き出し、主体的に学びながら将来の自立と社会参加に必要な力を育むための手段です。**子どもがICTを活用して主体的に学びに向かうために**、校内研修や実践交流を通して効果的な実践事例の共有を進めるとともに、教職員のICT活用指導力の向上を図り、児童生徒一人一人の学びをより豊かにする授業づくりを推進してまいります。

設問8 豊かな自然と地域資源を活用し子どもの世界（視野や経験、意識）が広がる多様な学びを取り入れた授業を行なっている



肯定的回答は91.5%と概ね高い評価を得ておりますが、地域資源の活用機会や実践内容には差が見られることがうかがえます。地域資源を活用した学習は、児童生徒の視野や経験を広げるとともに、地域とのつながりを深め、社会の中で豊かに生きる力を育む上で重要な役割を果たします。**地域とともに学ぶ教育の充実に向けて**、地域の施設や人材との連携をさらに深めるとともに、多様な体験活動や学習機会の充実を図り、社会に開かれた教育課程の一層の推進に努めてまいります。

設問9　すぐーる、ホームページ、配布物等を通して、活動のねらいや子どもたちの様子等の情報を発信している



肯定的回答は95.8%と高く、情報発信に対する教職員の意識や取組の向上がうかがえます。一方で、教育活動の内容だけでなく、そのねらいや成果についてもより分かりやすく伝えていくことが求められています。学校からの情報発信は、保護者や地域との相互理解を深め、家庭と学校が協働して子どもの成長を支える基盤となるものです。**社会に開かれた学校づくりを推進するために**、すぐーるやホームページ等を活用した情報発信の充実を図るとともに、教育的意図や学習の成果がより伝わる発信内容の工夫に努めてまいります。

設問10　子どもが、自らの進路選択・決定のために生活年齢に応じて得意なこと、興味のあることを広げ社会参加するための学習をしている



肯定的回答は96.6%と高い評価が得られており、社会参加や将来を見据えた教育活動が定着していることがうかがえます。一方で、発達段階に応じた系統的なすべての学習活動のさらなる充実が求められています。キャリア教育は、将来の自立と社会参加に必要な力を育み、一人一人が主体的に生き方を考える基盤となるものです。**自立と社会参加に向けた力の育成に向けて**、関係機関や地域との連携を一層深めるとともに、体験活動や進路学習の充実を図り、児童生徒一人一人の将来を見据えた教育活動を推進してまいります。

設問11　就学前や校種間、小・中・高等部の学部間での引継ぎを行い、学びの系統性や連続性のある授業を行なっている



肯定的回答は94.9%と高く、学部間や校種間における引継ぎを通した教育活動が概ね行われていることがうかがえます。一方で、引継ぎ内容のさらなる活用や学びの連続性の充実が求められています。学部間や校種間の円滑な接続は、児童生徒一人一人の成長を支え、切れ目のない支援と学びを実現する上で重要です。**まなびの系統性や連続性を図るために**、引継ぎ資料や支援記録の共有を一層充実させるとともに、学部間の交流や授業参観等を推進し、系統的・継続的な教育活動の充実を図ってまいります。さらに、保護者の思いやニーズを丁寧に把握し、その声を教育活動や支援に生かしながら、家庭と学校が連携した切れ目のない支援体制の充実を進めてまいります。

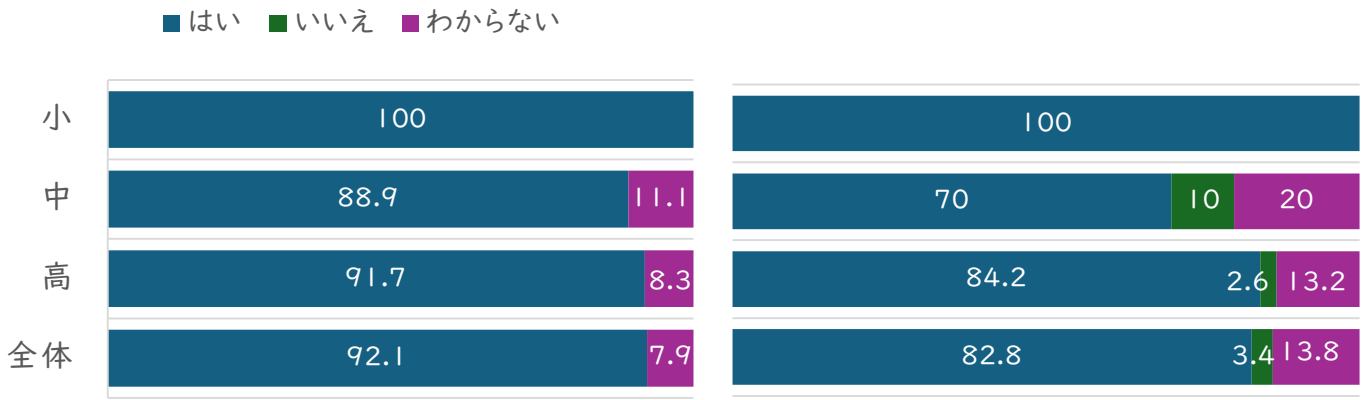
児童・生徒アンケート】

児童生徒アンケートでは、小学部において全体的に高い肯定的評価が維持されており、学校生活に対する満足度の高さがうかがえました。また、高等部では、主体的な学習活動や ICT を活用した学習、安全に関する学習等の項目において改善が見られ、教育活動の成果が表れていることが確認できました。

一方、中学部では肯定的評価の低下が見られたことから、学校生活への満足感や教職員との関わりについて、その要因を丁寧に分析するとともに、改善に向けた取組を進めていく必要があります。

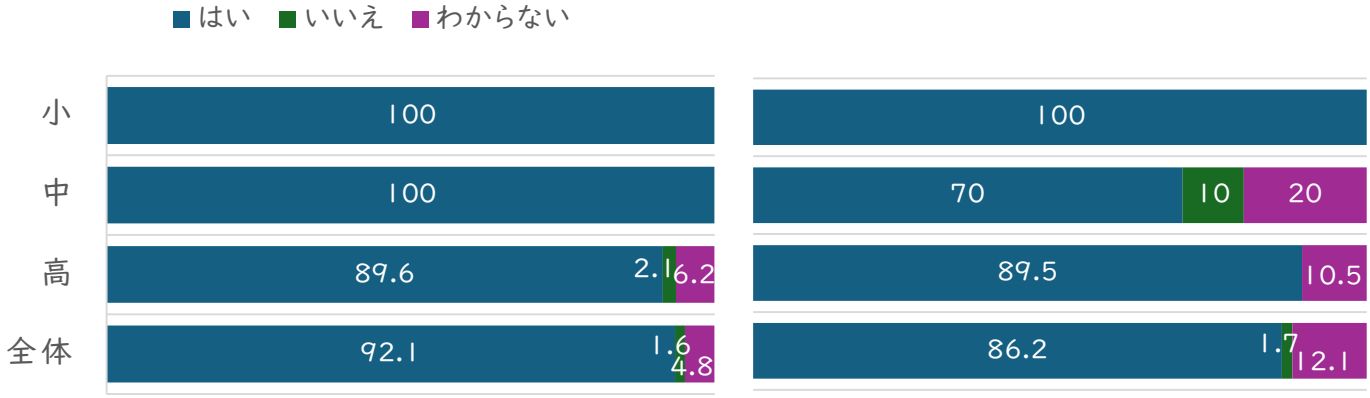
さらに、全学部共通の課題として、卒業後の生活や進路に関する学習の一層の充実が求められています。今後は、児童生徒一人一人が将来の自立と社会参加を見据えながら主体的に学ぶことができるよう、系統的・継続的なキャリア教育の充実を図ってまいります。

設問1　学校に安心して生き生きとできる時間や場所がある



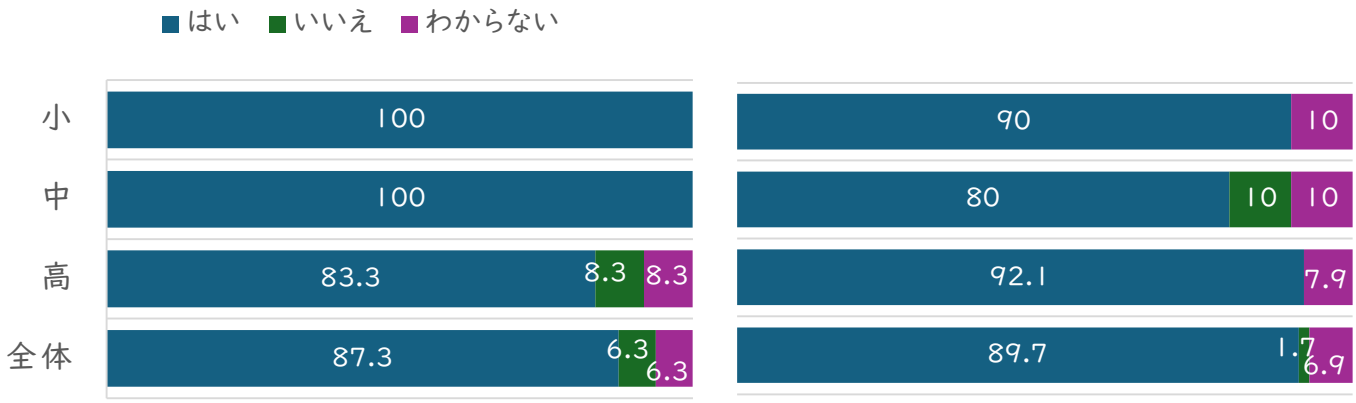
小学部においては、引き続き高い肯定的評価が維持されており、安心して学校生活を送ることができている状況がうかがえます。一方で、中学部、高等部において「わからない」の回答割合が増加していることから、児童・生徒一人一人の思いや実態をより丁寧に把握し、支援に生かしていくことが課題として考えられます。今後も安心して過ごせる環境づくりを基盤としながら、児童・生徒一人一人の学校生活への満足感や安心感を丁寧に把握し、個々のニーズに応じた支援の一層の充実に努めてまいります。

設問2　自分や人を大切にしている



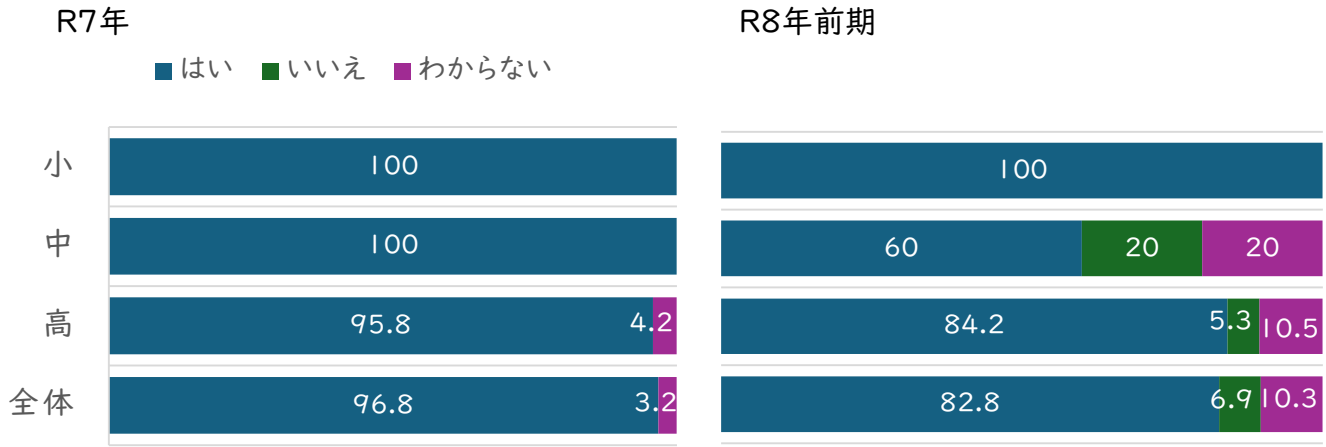
小学部では高い肯定的評価が維持されており、自他を大切にしながら安心して学校生活を送ることができている様子がうかがえます。一方で、中学部では肯定的評価の低下が見られたことから、生徒の実態や思いを丁寧に把握し、その要因について分析していく必要があります。今後は、日常の学習や学校生活の中で、自他を尊重する態度や仲間とのよりよい関わりを育む取組について検証を進めるとともに、児童生徒がその意義や大切さを実感できる人権教育の一層の充実を図ってまいります。

設問3　安全に気を付けて自分の命を守る行動ができる



高等部では肯定的評価の向上が見られ、これまでの取組の成果がうかがえます。一方で、小学部及び中学部では肯定的評価の低下が見られたことから、児童生徒一人一人の実態や意識を丁寧に把握し、その要因について分析していく必要があります。今後は、防災教育や安全指導を継続的に推進するとともに、児童生徒が危険を予測し、自ら判断して適切に行動できる力の育成を図り、安全に主体的に行動する態度や実践力を身に付けられるよう取組の充実に努めてまいります。

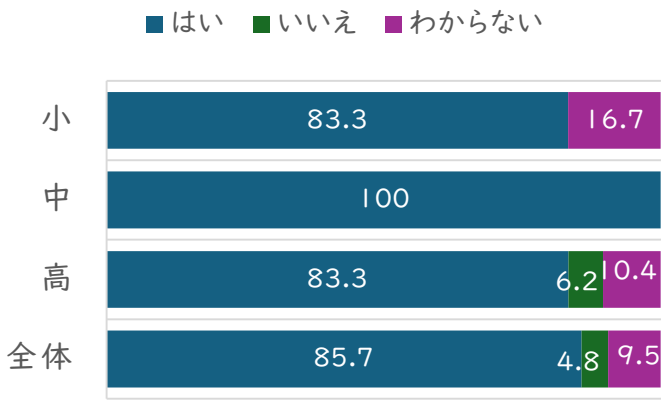
設問4　色々な先生と関わったり活動したりしているので安心して過ごしている



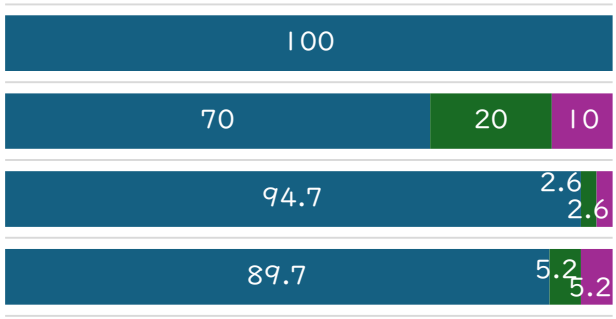
小学部・高等部では高い評価が維持されている一方で、中学部では低下が見られました。このことから、生徒と教職員との関わりや学校生活に対する受け止め方について、その背景を丁寧に把握し、要因を分析していく必要があります。今後は、複数の教職員との関わりが児童生徒の安心感や信頼感につながるよう、学部全体での支援体制の充実を図るとともに、一人一人との関係づくりを大切にした教育活動を推進してまいります。

設問5　自分から挑戦したり、考えたり、行動したりする勉強や活動がある

R7年



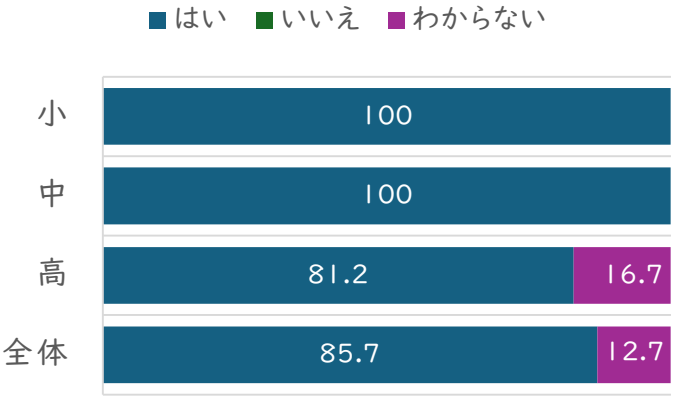
R8年前期



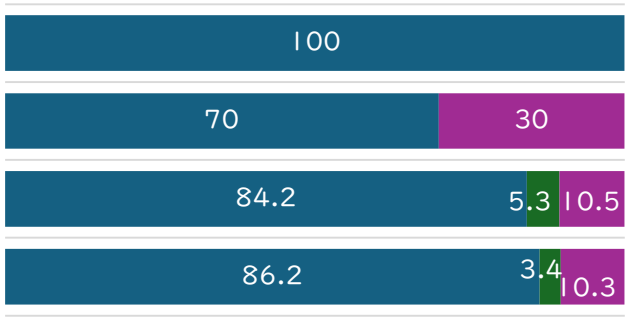
小学部・高等部では肯定的評価が向上しており、児童生徒の主体的な学習活動への実感が高まっていることがうかがえます。一方で、中学部では肯定的評価の低下が見られたことから、その背景や要因を丁寧に分析し、生徒の思いや実態を踏まえた取組の充実が求められます。今後は、生徒が自ら考え、選択・決定する場面や成功体験を積み重ねる機会を一層充実させるとともに、主体的に学び、達成感や自己有用感を実感できる教育活動の推進に努めてまいります。

設問6　先生は丁寧な言葉づかいや　態度で教えてくれる

R7年



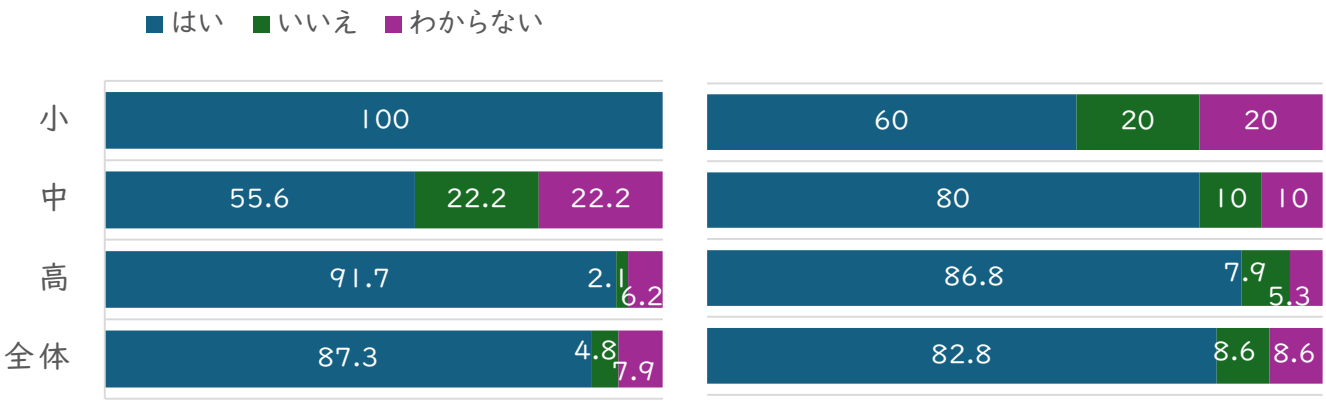
R8年前期



高等部では肯定的評価の改善が見られ、児童生徒との関わりや支援の成果がうかがえます。一方で、中学部では肯定的評価の低下が見られたことから、その背景や要因について丁寧に把握し、改善に向けた取組を検討していく必要があります。今後は、児童生徒との信頼関係を基盤とした指導・支援を一層大切にするとともに、日々の関わり方や支援の在り方について継続的に振り返り、児童生徒一人一人が安心して学び、成長できる教育環境の充実に努めてまいります。

設問7　自分の生活に生かせるように ICT 機器（アイパッドやスイッチ）を活用している

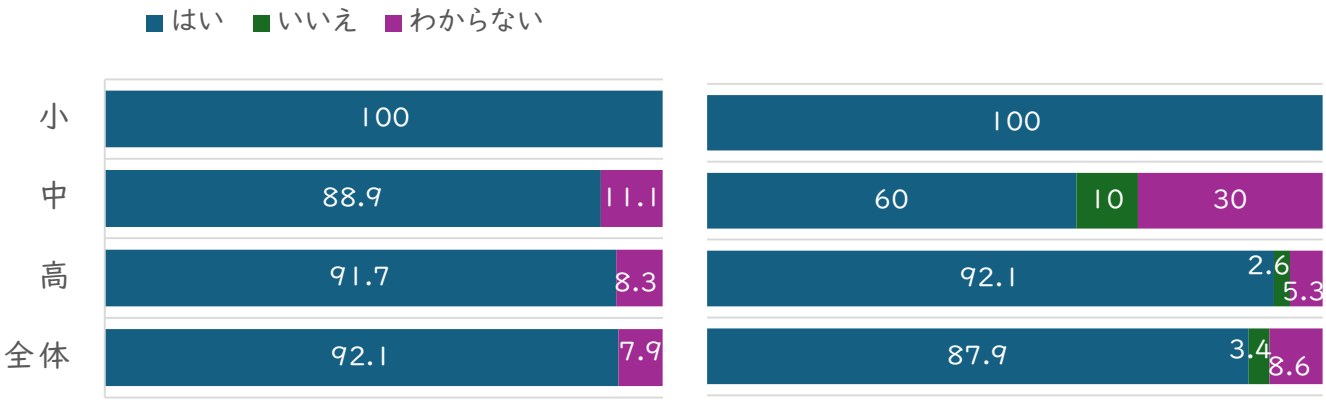
R7年　　R8年前期



中学部では評価が向上しており、ICT を活用した学習の成果が表れていることがうかがえます。一方で、小学部では「わからない」と回答した割合が多く、ICT 活用の目的や効果について、児童自身が十分に実感できていないことも考えられます。ICT は活用すること自体が目的ではなく、学びを豊かにするとともに、情報を活用する力や他者とつながる力を育み、将来の社会生活や自立と社会参加につなげていくための手段です。今後は、学習活動との関連を分かりやすく示しながら、児童生徒が ICT を通して社会とのつながりを実感し、主体的に学ぶことができる教育活動の充実を図ってまいります。

設問8　自分の力を 発揮して、色々な人 関わり活動している

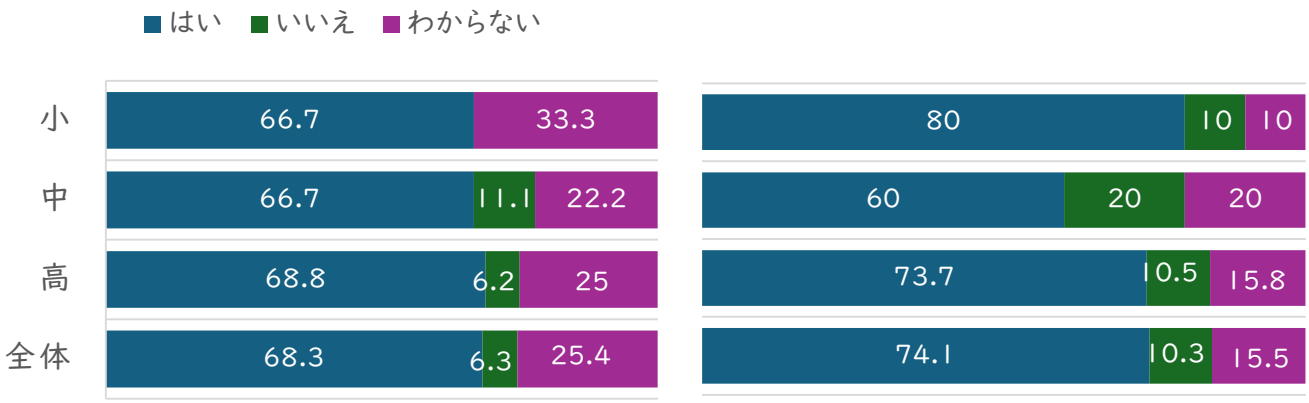
R7年　　R8年前期



小学部、高等部では高い肯定的評価が維持されています。交流及び共同学習や地域との関わりをはじめとする、多様な人との活動経験が、児童生徒の自己肯定感や社会性の向上につながっていることがうかがえます。今後も、様々な人との出会いや関わりを通して互いを認め合い、社会とのつながりを実感できる学習活動の充実を図るとともに、豊かな人間関係を築く力や社会の中で主体的に生きる力の育成に努めてまいります。

設問9　自分の卒業後の生活を考えて、やりたいこと、学びたいことを伝えている

R7年　　R8年前期



全設問の中で最も肯定的評価が低く、「わからない」の回答割合も高い結果となりました。このことから、将来の生活や進路について考える機会や、自らの進路を主体的に捉える取組のさらなる充実が求められています。今後は、将来の生活や進路について考える機会を一層充実させるとともに、児童生徒が自分の思いや願いを表現しながら、自ら選択・決定する経験を積み重ね、主体的に進路選択や将来設計に関わることができるよう支援の充実を図ってまいります。